



早いもので、新年度を迎えてから2カ月が経とうとしていますね。

ご入園、ご入学された皆様、改めましておめでとうございます。そろそろ新しい環境での生活にも慣れてきた頃でしょうか。私は、毎年新年度を迎える度に、初めて自分が保育園に預けた当時の事を思い出します。

復帰する前、預ける予定の時間に“こんなに朝早くから離ればなれになるのか…”と思いを馳せ、午前中遊び、昼食を摂り、お昼寝をして夕方散歩に出かけて、お風呂に入れて、夕飯の準備を始めた頃、“保育園が始まったらこの時間まで会えないのか、長いなあ…”と一挙に寂しさと不安が募った事を覚えています。

実際に始まってしまえば、常に必死で“長い”“寂しい”と感じる間もなく日々が過ぎ去っていった事も事実ですが、様々な状況が把握できていて預ける時間も、お迎えに行く時間も心得ている親の私でもそのように感じるのです。何もわからず、ある日を境に一日の大半を過ごす場が変わり、お部屋も、食事も、周りにもいる人も変わる子ども達にとっては、それはそれは不安で心細い事でしょう。

慣れるまでには個人差もあり、すぐに慣れてしまう子もいれば、長い時間をかけて次第に慣れていく子もあり、お家の方がお迎えに来るまで何時間でも泣いていた子が突然ある日を境に泣かずに過ごせるようになる何ていう事もあります。

自分の心がキューっとした経験、今でも鮮明に覚えていて、毎年新年度を迎え、一生懸命声をあげて泣いている子や、不安そうな保護者の方を見るとつい感情移入してしまいます。心の中でのエール、言葉に発してのエール、文章でのエール、沢山送らせて頂きたいと思います。

すごいもので、子ども達は小さな社会の中ですくすくと様々な育ちを見せてくれています。送迎時に悲しい声をあげて泣いていると“一日こうやって泣いているのでは…”と心が痛くなってしまおうと思いますが、一日の中では小さな事から大きな事までその子なりに楽しみを見つけて過ごせる時間が次第に増えていきます。

どうか、保護者の方も頑張りすぎて無理をし過ぎず、私たちに何かお手伝いできる事があればお気軽にお話下さいね。

小学2年生になった我が家の長女。先日寝る前の布団の中で「ママ、きょうね、かなしいことがあったとき、きょうしつからよみうりランドのかんらんしゃがみえたの。ママにあえたきもちになってげんきになったんだ」との事。よみうりランド=ママになっている事も、教室からよみうりランドの観覧車が見える事も、よみうりランドの観覧車を見て私を思い出して元気になれることも初耳でした。

いつでも、いつまでも子どもにとっての安全地帯（心から安心する存在）でありたいと思った出来事でした。今夜はぜひ、「いつもありがとう」と沢山抱きしめてあげてください。

毎日の子育てお疲れ様です！